備前国分寺の遷り変わり

741（天平13）年の詔を受けて建立された備前国分寺は、平安時代中頃から後半にかけての間に改修が行われたようです。

平安時代中頃には塔が失われ、さらに今から約800～900年ほど昔の平安時代末には、講堂と北側の回廊が焼失してしまったようです。この頃には金堂も使われなくなったと思われます。

鎌倉時代以降に講堂は建て直されますが、建立当初よりも規模の小さな建物に縮小されたようです。

規模を小さくしながらも続いていった備前国分寺は、今から約400～500年ほど前の16世紀後半には使われなくなったものと思われます。焼き討ちにあったという伝承も残っていますが、本当のところは分かっていません。

古代の備前の様子（推定図）

時代	古墳	飛鳥	奈良	平安	鎌倉	室町	安土桃山	江戸	明治～現代
	538	645	701	710	713	741	788	794	1086	1191	1192	1338	1467	1582	1603	1868	1974	2003	2009

おもなできごと

- 538 **仏教伝来**
- 645 **大化の改新**
- 701 **大宝律令**
- 吉備国を備前・備中・備後に分割
- 710 **平城京遷都**
- 山陽道沿いに高月駅を設置
- 713 **国分寺建立の詔**
- 備前国を分割し美作国を設置
- 741 藤野駅を廃止し珂磨駅を置く
- 磐梨郡を設置
- 788 **平安京遷都**
- 794 **白河上皇による院政**
- 1086 **鎌倉幕府の成立**
- 1191 「長講堂所領注文」に鳥取荘の記述
- 1192 **室町幕府の成立**
- 1338 **応仁の乱**
- 1467 **江戸幕府の成立**
- 1582 **本能寺の変**
- 1603 **明治維新**
- 1868 史跡整備始まる
- 1974 整備のための発掘調査開始
- 2003 備前国分寺跡初の発掘調査（県）
- 2009

備前国分寺

建立 → 廃絶

- 講堂再建
- 金堂廃絶・講堂焼失
- 金堂再建
- 塔・中門・金堂倒壊